

主の聖名を賛美いたします。  
イエス様のご復活を先日お祝いしたばかりだと思っていましたが、瞬間に時は過ぎ去り、昇天日・5月26日を迎えますが、如何お過ごしでしょうか。ドイツの祝日はキリスト教暦に沿っているので、昇天日は祝日となります。しかし、どれほどの方が祝日の意味を理解しておられるだろうかと思われています。先日、聖書の学び会等にいらしているお母様が仰っていましたが、イースターはプレゼントを貰う日（玉子ではなく）、と思っている子どもたちが多いとのことでした。キリスト教国であるドイツが!!! と考えさせられたものです。

今月は新しい出会いがありました。日本在住のスイス人牧師先生を通して、スイス在住でスイス人のご主人と、3歳のお子さんがいらっしゃる日本人のお母様を紹介されました。その方のお住まいはとても長閑な観光地で、近くには日本人はあまりおらず、心開けるお友だちがいないとのこと、定期的に週1回、1時間ほどスカイプでお喋りをしています。ご主人はクリスチャンですが、彼女は特に神様のことを求めてはられません。しかし最後に、その時のお話の内容に関連するような御言葉を一ヶ所読み、お祈りをもって終わりにしています。幸いなことに彼女は御言葉にも耳を傾け、祈られることも喜んでおられるので、主が彼女のことを導いておられるような気がしています。しかし、何といっても海外在住者にとって、日本語でお喋りができる場があるのはとても意義深いことなので、少しでもお力になれば嬉しいです。

一方で、寂しいお別れがありました。4月のニュースレターでも書かせて頂きましたが、日本を離れて6年という歳月は、天国に帰られた方々が多くおられます。今月も父親のような存在でいらしたドイツ文学者・小塩節先生が召されました。「支える会」を立ち上げる際、推薦人にもなってくださった先生です。また先生がドイツ公使を務められて以来、召されるまで私たちの教会と共に50年近く歩み続けられた先生でもあります。常に教会のことを気に留めてくださっていました。過去には私たちの教会存続が危ぶまれた時があったそうですが、教会を守るために多大なご尽力を頂いたそうです。

私が日本へ一時帰国の際には、既に実家がない私を1ヶ月以上の間、里帰りした娘のように先生のご自宅に温かく迎え入れてくださいました。振り返りますと数えきれないほどの愛を頂きました。頂きっぱなしでした…。2か月ほど前にお電話を頂き、最後のご挨拶「auf Wiederhören・さよなら」が、本当の最後となってしまいました。召されたことはとても悲しいですが、長い間、お身体の痛みに苦しめられたので、やっと解放されたのではとも思われています。しかし、ご家族にとりましては穏やかで明るくユーモアいっぱいの先生が、今はいらっやないという寂しさは計り知れないのではないかと推察いたします。ご遺族の上に主の慈しみをもってカづけてくださいますようにと祈るばかりです。

私も喪失感の中にありますが、お友だちから、「遠くにいます方が亡くなるというも感じますが、生きておられる時より、身近な感じがします。これからはより近くで見守っていきますよ。」と、メールを頂き慰められています。先生がこよなく愛してくださったこのケルン・ボン日本語キリスト教会のこれからをも、主と共に近くで見守ってくださると信じます。そして、小塩節先生はじめこれまでご支援くださり召された方々が、天から執り成しの祈りを捧げてくださっていると思いますので、教会の方々と共に一歩ずつ前進して参りたいと改めて思われています。

皆様におかれましては、主のお守りとお支えの内に心もお身体もどうぞお元気でいらしてください。

**★メールアドレスが変りました。お手数おかけしますが、登録をよろしく願いいたします。**

(旧) [r310130s@yahoo.co.jp](mailto:r310130s@yahoo.co.jp) (新) [r310130s@gmail.com](mailto:r310130s@gmail.com) @以下がgmailに変更となっております。

ホームページにはドイツの様子がわかる写真も掲載しています。過去のメールマガジンも見やすくなりましたので、是非ご覧ください。  
<http://www.komatsugawa-ch.com/Pfarrerin-Ryokosasaki/mailmagazine.html>

先生、また会う日まで!!



2017年7月2日 ポンヘッフアー教会にて  
ご一緒に礼拝をお捧げした後、先生の明るさとユーモアで楽しいティータイムの時を持たせて頂きました。この時が先生ご夫妻最後のドイツ訪問となりました。